

Matsumoto Univ  
Matsushiro Junior College

Report of Student Support

平成20年度

文部科学省

## 新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラム (学生支援GP)

元気なキャンパスをつくり出す仕掛けの創出  
— “治療”から“予防”へのパラダイム転換 —



学校法人松商学園

松本大学松商短期大学部

## 学生支援に対する基本的な考え方

### 1. 学生支援に対する理念・目標

本学では、学生のニーズをとらえた数々の学生生活を支援する取組を行ってきています。学生に必要とされる内容(教員サイドからの視点)、あるいは学生の要求(学生サイドからの視点)は、多方面に渡っています。その目的は、学生と教員とは異なるように見えても、実は同じで、若者が社会へ出るためにどうしても通過しなければならないプロセス、つまり自分自身で判断し、計画を立て、責任を持って実行していくという当たり前のプロセスを完遂させる力をつけることに行き着くと考えます。

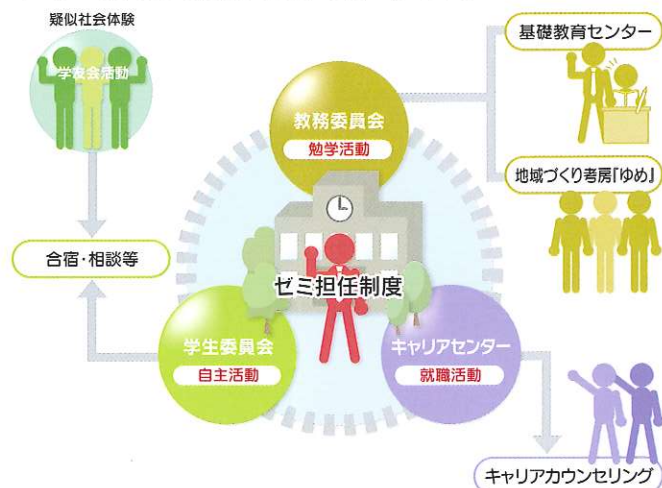
#### 社会人としての資質

- 資格取得など仕事遂行能力
- 幅広い視野・教養と社会性の獲得
- 異質(世代・地域・文化)とのコミュニケーションなど
- 協働の姿勢(プレゼンテーション、ホスピタリティ精神)を付加価値として身につけることを支援

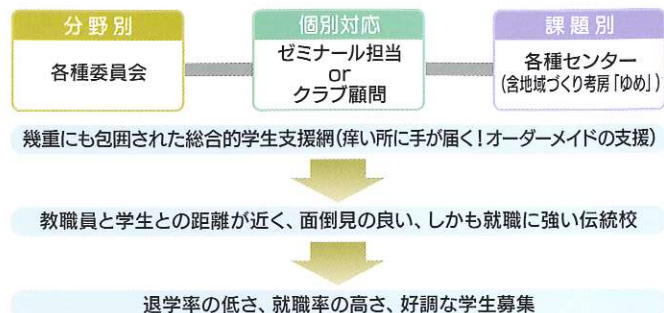
“地域社会の幸せづくり”に貢献できる人づくりを目指す

### 2. 学生支援に対する現在の取組の組織性

本学の学生支援は、社会の複雑さを反映して、学生の抱える問題に応じ多岐に渡っていますが、それぞれにきめ細かく取り組まれています。その結果、退学率の低さ(楽しく学べる環境と学生・教職員間の距離の近さからくる気軽な相談体制)、就職率の高さ(指導の充実、学習の成果と社会性の涵養)、好調な学生募集(魅力あるカリキュラム等)などの指標に顕著に表れています。



ゼミナールを中心に組織化された学生支援体制



### 3. 社会的ニーズや学生のニーズへの対応

本学では、地域社会との連携を取り入れた帰納的教育手法を駆使していますが、この取組は第一回GPに採択されています。この取組自体は、学生の学びの動機付け、学習意欲の向上を目指して行っているものですが、地域の側から見ると、高齢化が進む社会にあつて、若者の参加が必要とされる場面が増えているので、地域に賑やかさを取り戻すなど地域活性化への重要な貢献となっています。



また、異なる大学の学生との交流も重要な意味を持ってきます。相互点検・評価校である湘北短大との交流も継続的に行われ、こうした取組へも、大学側から多様な支援がなされています。多様な交流を通じて、学生は楽しみながら成長していると感じています。



湘北短期大学との相互点検評価活動の経過

## 4. 学生支援を行う教職員の資質向上 (FD・SD)

### 学生支援の重要性を教職員の共通認識に

大学での教員の任務は、「教育・研究」「社会貢献」「大学運営(委員会活動など)」という3本柱からなると、本学では定義しています。その中の教育活動では、優れた授業を行う他に、学生生活を様々な面から支援する事も含まれます。

このような姿勢を大学が採っている事から「教職員と学生との距離が近く、面倒見の良いしかも就職に強い短大」として地域社会からの熱い視線を受けて来ています。

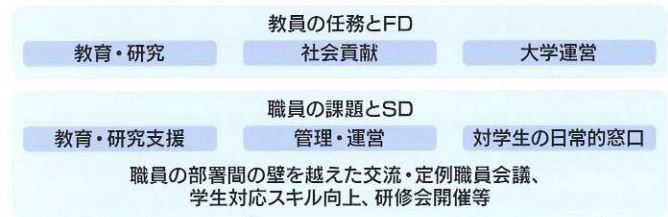
### 教職員の能力アップへの取組、SD(スタッフ・ディベロップメント)について

各部署において求められる職員像を鮮明にしつつ、研修会に派遣しその能力アップを図っています。この他月に一度の全職員参加の定例職員会議を開き、職員間の横の連携を深めており、本学教員の動きや全国の大学の状況なども学ぶようにしています。

### FD(ファカルティ・ディベロップメント)について

FD委員会、全学FD委員会を設け、授業評価・授業参観の他に学

内外の優れた実践を学ぶ学習会も開催しています。年に一度は合宿形式での学部横断的な全学意見交換会を実施し、「わかりやすい授業を目指して」というFD活動報告書(短大版)も出版しています。



## 5. 取組の実施後の評価及び内容の改善

学生支援活動の評価は、年間活動の総括的文書を、文字通り毎年「アニュアルレポート」としてまとめ、学内外の目に触れるようにしています。「地域総合研究」という雑誌に掲載し、公刊されるので、大学関係者等にはいつでも公開されています。

また、自己点検・評価報告書、相互点検・評価報告書を作成し、今年度は第三者による評価を受けました。

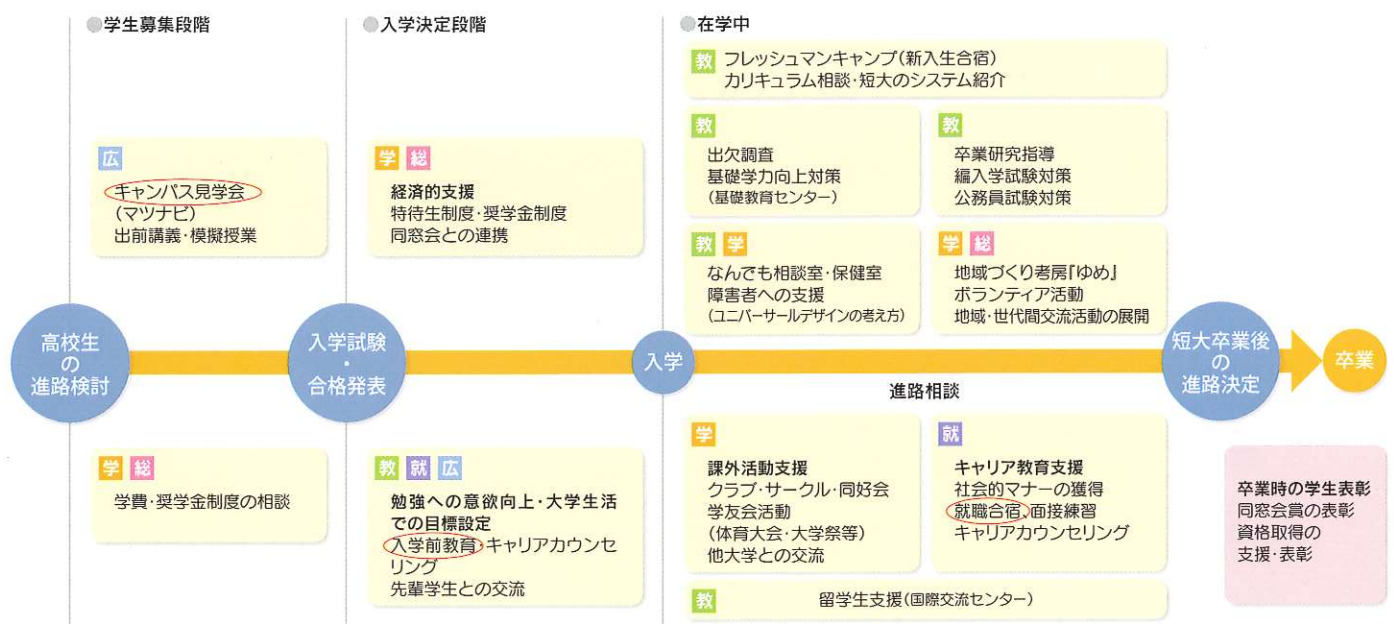
# 学生支援に対する基本的な取組状況

## 1. 入学から卒業までを通じた総合的取組

本学学生は、置かれている社会状況に意識的または無意識に影響を受けた結果、様々な困難を現在抱えています。そのような現代的課題に対して、有効に働くと思われる対策を講じるべく、独創的

な学生支援活動を展開しています。

本学は、学生参画を重視するという大学側の基本姿勢に基づいて、入学前から卒業まで、総合的な学生支援に取り組んでいます。



※ 教は教務委員会、学は学生委員会、就はキャリアセンター、総は総務委員会、広は広報委員会。

時系列で見た本学の学生支援の取組

## 社会的ニーズに対応した新たな取組

### 1. 新たな取組の趣旨・目的

#### 動機や背景 一受動から能動へ、発想の転換を一

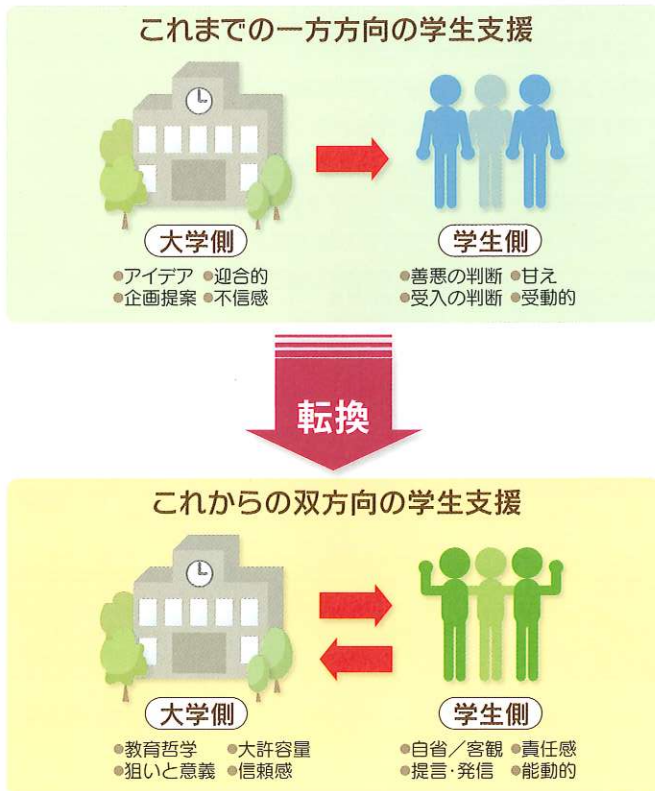
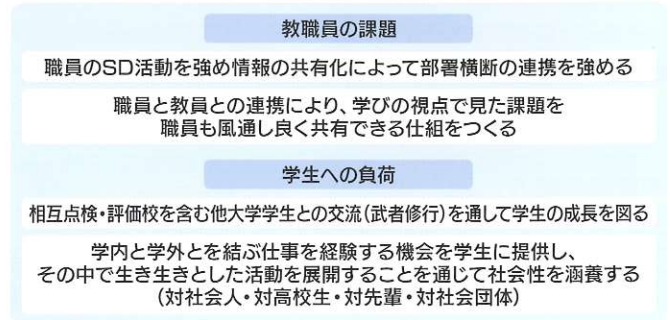
本学は多くの学生支援の取組を行い、成果も挙げてきています。しかし大学側からのアイデアや企画に対し、学生はそれを利用するか否かを選ぶといった、受身的立場に置かれていたという弱点がありました。

現在多くの大学は、学生の側に負荷をかけない方向を模索しているように見えます。これに対して私たちの今回の申請では、「『学生に負荷を課すからこそ学生が成長できるのだ』との発想で学生支援を考えるべきではないか」と主張することが最大の眼目になっています。しかし、学生にむやみに負担だけを強いるのでは、やはり不満が続出するだけかもしれません。効果的に遂行するには、学生が納得してその負荷を受け入れ克服に向けて取り組もうとするか、教職員側からすれば負荷の意味・意義を納得させられるかが鍵となります。それには大学側が多面的な評価軸を有することに由来する信頼関係に加え、教職員側には様々な技術や能力が要求されるはずで、これをSD・FD活動でカバーし、新機軸へ対応しようと考えています。

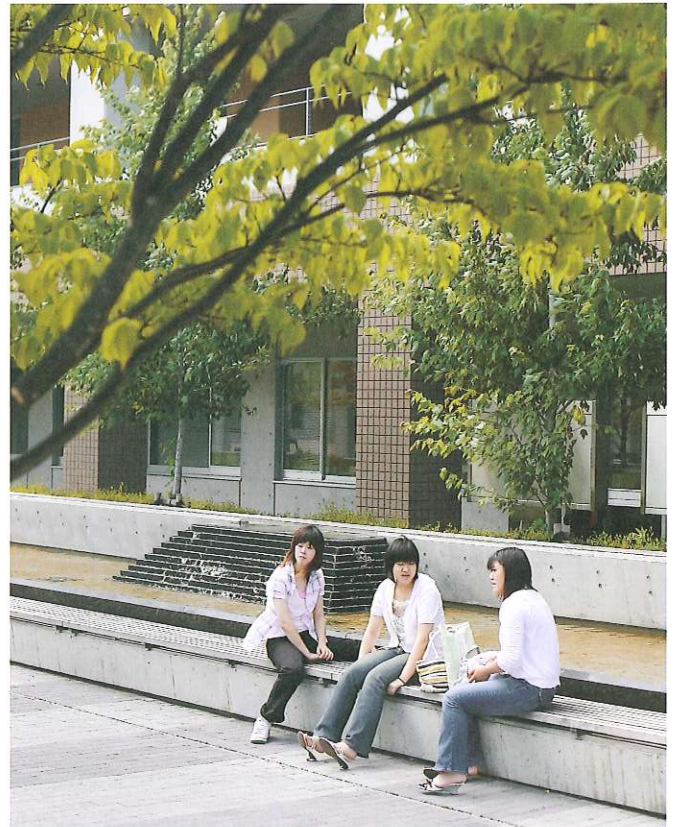
学生参画で創り出した元気なキャンパスの雰囲気の中で、学生の“治癒力”に信頼を置き、学生自身の課題を学生集団として“予防”的に解決できる仕組みを創ることは、難題であるだけに挑戦するに足る課題だと認識しています。

#### 新しい学生支援のための4つの方向性

発想を転換した学生支援を展開するための基盤形成と、これまでの延長線上にある具体策として、次の4点を考えています。



新しい取組に求められる姿勢の転換



## 2. 新たな取組の独自性

### 学生参画で元気なキャンパスを創り出す

短大2年間をカスタマーとして通過するだけの存在ではなく、教職員と同様に学生は大学を構成するひとつのセクターであるとみなすのが、本取組を貫く独自の視点と言えます。

学生は在籍する大学の全てに満足しているのではなく、不満や改善して欲しいと思うことも多いはずで、自分が学ぶ大学を良く

したいと思っていることに信頼を置けば、大学を創り上げるプロセスに前向きに参画することが期待できます。

学生の参画を得つつ、教職員側でも努力して、キャンパス内に明るく元気な雰囲気を作り出す。その中で学生は教職員からの支援も得て、現代の学生が抱える諸問題の克服に「知らず知らずのうちに立ち向かっている」このような形態が私たちの考える“予防”的対応ということになります。



“予防”的対応とそれを支える基盤整備の概念図

## 職員のスキルアップと相互連携

この試みを成功させるには、職員が協力して対応できるための工夫が必要です。そのためにも、学生の置かれた状況、各部署が把握している情報等が共有されている必要があり、事務職員間の緊密な連携が欠かせません。また、多感な青年期である学生への対応として、繊細さや高度なスキルも要求されます。

## 職員集団の育成(SDの強化)

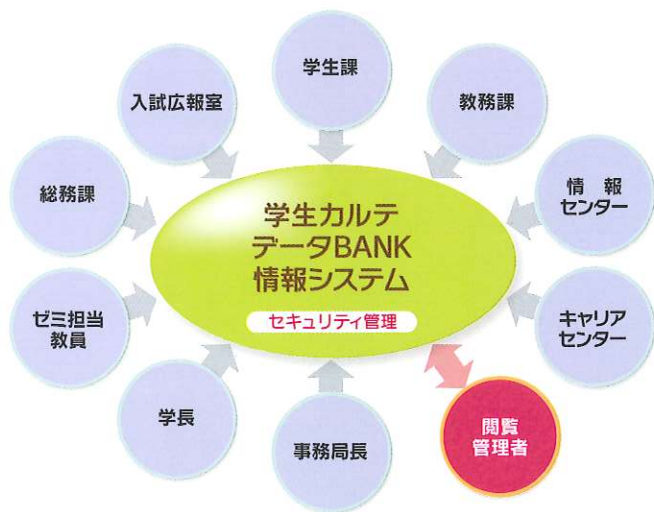
職員は日常的に学生対応の窓口となることから、青年期心理の理解や言葉遣いなどにも配慮できるように、SD活動の旺盛な展開、特に、定期的なスキルアップのための研修等が必須となります。

## 教職員間の連携強化と

### 学生カルテ・データBANK情報システムの構築

学生個人について、「気になる情報は誰でも書き込める」が、「参照は許可を受けた者に限られる」学生カルテ・データBANK情報システムを開発・導入します。

様々な持ち場で得られた多様な情報があるので、例えば誰か個人の考えに基づく偏った情報一色とはならず、学生は多くの目線で見守られているという安心感が存在するでしょう。



#### 《入力側》

- 各課や教員から学生の情報入力・登録を可能とする。
- 学生個人の学習状況や、メンタル面の課題、生活状況など気づいた事を入力し登録できる。
- 入力方法・規則をルール化し、学内の全部署・教員からの入力を可能にする。

#### 《閲覧側》

- ID・パスワードおよび、閲覧管理者によるセキュリティ管理のもと、登録された情報が可能（守秘義務考慮）。一定の書込情報におけ『プラス面』『マイナス面』を数値化し、チェックのかかる学生を確認・検索できるシステムを構築
- 定期的な確認により、情報を複合的に判断し即対応できる体制を確立。

学生カルテ・データBANK情報システムの構築

## 3. 新たな取組の有効性

### 取組の有効性や効果を判断する指標

本取組によりコミュニケーション力を付け客観的かつ冷静に判断すること、相手の立場からも物事を見ること、教職員と一緒にあって相互に理解しながらよりよい大学生活を創り上げていくこと

等が出来れば、大学にとってはもちろん当の学生も大きな糧を得るので効果満点だと言えます。「学生に実力と自信を育む」という教育目標を達成できたかどうかという視点で見れば、この取組が軌道に乗れば“病んだ状態”への移行を“予防”できる可能性があるので、その効果は計り知れない程大きいと考えています。

## 学生支援との関連

### 一社会的ニーズ、学生ニーズへの対応一

これら新たな取組の多くは、不十分ながらも現在実施されている内容です。しかし、この既存の取組でさえ、教職員側が「大学運営に学生の意志を取り入れる」という意識を持つだけで、その内容や展開の仕方に大きな変化が出てくると考えています。

## 4. 新たな取組の改善・評価

### どのような体制・方法で評価するか

学部長、学科長それに学長(代行)と副学長からなる総務委員会で点検評価されます。各取組を担当する委員会に属する教員や、関係する学生達も含めた会議を開いて成果や問題点が確認され、評価内容が総務委員会に報告されます。

### どのような観点について評価するか

教員や職員の態度の変化や、多くの学生が多様な活動に参加していることを確認できることが重要です。このことに関連して、コンピューターシステムの実質的な運用がどこまで進展するかもポイントとなります。全学生からの変化に対する生の声を集め、これもまた報告書にまとめる予定ですが、ここでも学生と協働した取組としての点検・評価活動が展開されます。

## 5. 新たな取組の実現の可能性と将来性

### 各年度の運用

大学運営に学生が参画するという方向は、現在の大学改革の流れを推進すれば、必然性を持っているように見えます。学生がどこまで本気になれるか、そうなるための軌道に乗せることが出来るか、1年目はその準備期間であり、試行期間であると思っています。

会議については、初年度は意思統一のためのものになり、次年度以降は実施した結果・途中経過を見ながら、成果と問題点を確認する会議になるだろうと考えています。

### 補助期間終了後の展開等

2年間で定着させ、補助期間終了後は松商短期大学部の新方式として知られるくらいにまで完成度を高めたいと考えています。教職員だけの努力では完成できない困難だけれどもそれだけに魅力的なテーマであり、継続的な挑戦に値する課題だと認識しています。

Matsumoto Univ.  
MATSUSHO  
JUNIOR COLLEGE  
2008

## 松本大学松商短期大学部は、文部科学省が選定する 平成20年度 「新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラム(学生支援GP)」 に採択されました。

テーマ「元気なキャンパスをつくり出す仕掛けの創出」

文部科学省では、国公私立大学を対象に、教育の質的向上や教育改革への高度かつ特色ある取り組みを、毎年公募・選定しています。

「優れた取組み」の公募では「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」、あるいは「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」等のカテゴリーが設定されています。このうち松本大学松商短期大学部は、学生支援GPに「元気なキャンパスをつくり出す仕掛けの創出」というタイトルで申請しました。

今回の採択は、平成15年度(採択テーマ:「多チャンネルを通して培う地域社会との連携」)、平成18年度(採択テーマ:「キャリア教育をベースとした課程教育の展開」)に続いて3度目です。

経済・精神・勉強面など最近の学生が抱える問題は多様性を見せています。本学も入学前から卒業までの一貫した学生支援システムを構築し、手厚く対応しています。しかし、現実には生じている問題への“治療”的対応だけに止まらず、根源的な解決策としての“予防”的対応強化の必要性を感じるようになりました。これまでの萌芽的試みに対し、理論的な裏付けを行い、もっと自信を持って推進したいという考えから、今回の申請に至りました。

大学運営への学生参画で元気なキャンパスという雰囲気醸成を、その中で学生が自力で自らの課題を解決する仕組みを創出した。そのために、「学生を側面から支援する教職員のFD・SD活動」「教職員の連携強化を図る」「湘北短大との相互点検・評価に付随した学生間交流での武者修行」「大学と一体となって進める社会体験活動で、コミュニケーション・プレゼンテーション能力等の社会的スキルを涵養する」こうした人材の地元定着は、地域の地盤沈下防止に役立つであろうと考えました。こうした有機的かつ総合的な実践が高く評価されたと思われます。

### 新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラムとは

GP=Good Practice/優れた取組

「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」は、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図るものです。

#### 【GPのキーワード】

##### ① 国公私を通じた競争的環境

教育改革の参考となる「優れた取組」を見つけ出すうえで、国立・公立・私立といった枠にとらわれることなく広く公募し、申請のあった取組の中から特に優れた取組を選ぶこととしています。これは各大学等が積極的に教育改革に取り組むことのできる環境、つまり「競争的環境」を整えることで教育改革への動機づけ、インセンティブを与え、互いに切磋琢磨することを目的としています。

##### ② 第三者による公正な審査

「優れた取組」を適正に選定するために「公正な審査」を担保することが必要です。そのため、有識者や専門家等から構成される委員会によって、書面審査や面接審査などにより、公表された審査基準に基づいて、ペーパーレフェリーの専門的見地からの意見も踏まえ公正な第三者評価による審査を行います。そして、選定した取組も選定しなかった取組も、ともにその理由を付して大学等に連絡しています。

##### ③ 積極的な社会への情報提供

我が国の大学教育改革を推進するという観点から、「優れた取組」を選定し財政支援するだけでなく、選定された「優れた取組」を全ての大学等の共有の財産として、多くの大学等が自らの教育改革をすすめる議論に活用してもらうため、「優れた取組」に関する情報を多くの大学等に積極的に提供することが不可欠で、とても重要な意味を持っています。

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

# 大学・短大ワンキャンパス

## 松本大学

〈総合経営学部〉

- 総合経営学科
- 観光ホスピタリティ学科

〈人間健康学部〉

- 健康栄養学科
- スポーツ健康学科

## 松本大学 松商短期大学部

- 商学科
- 経営情報学科



学校法人松商学園

## 松本大学松商短期大学部

〈商学科〉〈経営情報科〉

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 TEL.0263(48)7200 FAX.0263(48)7290  
URL <http://www.matsumoto-u.ac.jp> e-mail [www@matsumoto-u.ac.jp](mailto:www@matsumoto-u.ac.jp)

お問い合わせ

**Tel 0263-48-7200**

e-mail : [m-office@matsu.ac.jp](mailto:m-office@matsu.ac.jp)

